

【全体概要】

喜界島の在来カンキツ類については、機能性成分を多く含有していることが鹿児島大学の調査等で報告されており、生果のみならず加工品への活用も期待されている。但し、庭先果樹としての栽培が多く、産地としては面積、生産量が少ない状況である。今後は特有の香気成分の分析や早期多収技術の習得及び喜界島に合った台木の選定を行い、面積及び生産量を拡大し、小規模ながらも「在来カンキツ」の産地づくりを目指す。

新品種・新技術等の概要

実需者・生産者共に当地域の特産果樹である在来カンキツ類について注目しており、新たな需要を開くために、青果物流通の可能性に加え、果皮機能性成分及び香気成分の評価と同時に消費の可能性を探っている。

このため、産地ブランド化のために、下記の課題を解決する必要がある。

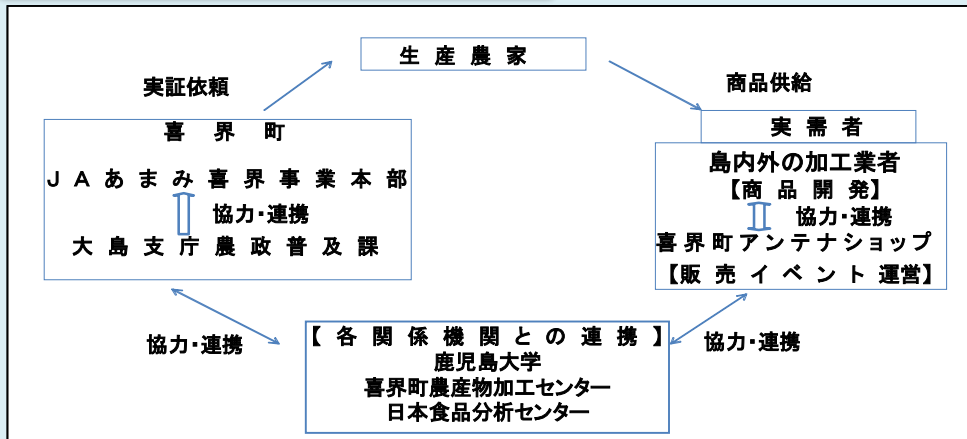
- ① 芳香成分の分析及び機能性とその活用方法の検討
(試作・検討を図り生産と流通がマッチングすることによる産地化を目指す。)
- ② 安定供給のための手法（早期多収技術等）
- ③ 当地区にあった台木の選抜



主な取組内容

- 芳香成分の分析
 - ・ 在来カンキツ4品種（ケラジ、シークー、カーブチー、フスー）の香気成分分析（リモネン、リナロール、酢酸リナリル）
 - ・ 分析結果等を踏まえた活用方法を検討
- 在来カンキツの早期多収技術の検討
 - ・ 施肥・病虫害対策の検討及び栽培暦を作成
 - ・ 品種にあった台木（3種類）の生育状況確認
 - ・ 植物生長調整剤を活用した着果促進
 - ・ 先進農家訪問による栽培技術等の情報収集
- 実需者の意見収集
 - ・ 東京大田市場他2店舗訪問によるニーズ調査・在来カンキツのPR

事業実施の体制図



課題と今後の対応

- 1年目の取組（実績）
 - ・ 香気成分分析結果を踏まえた芳香の強みを生かした商品開発や販路拡大検討
 - ・ 早期多収技術の実証
 - ・ 植物生長調整剤による着果率向上効果を確認
 - ・ 実需者ニーズ調査⇒在来カンキツの香気に高い評価を得た
- 2年目の取組（計画）
 - ＜生産技術確立＞
 - ・ 早期多収技術の実証の継続
 - ・ 着果率向上対策の実証
 - ・ 実証結果を踏まえた栽培暦の再検討
 - ・ 品種にあった台木の選抜試験
 - ＜実需者・消費者に対するPR活動＞
 - ・ 香気成分分析等の結果を踏まえた実需者へのPR
 - ・ 実需者への食味調査